200701040A

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究

平成19年度総括研究報告書

主任研究者 秋田 喜代美

平成20(2008)年 3月

目　　次

Ⅰ．総括研究報告

保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究 ---------- 1

秋田喜代美

（資料１）保育自己評価ツール（SICS：Self-evaluation Instrument for Care Settings の根底となる Experiential Education（ＥＸＥ）の教育思想

（資料２）SICS 補足資料

（資料３）SICS のキー概念

（資料４）日本版 SICS マニュアル

（資料５）Form A, B, C, D

（資料６）保育の質に関する項目作成調査用紙

II. 分担研究報告

１．ＯＥＣＤ諸国における保育の質の動向に関する研究 ---------- 48

秋田喜代美

（資料１）ＯＥＣＤが問う保育の質に関する研究

（資料２）ニュージーランドにおける保育の質へのインセンテイブ

（資料３）ニュージーランド教育省資料

（資料４）保育の「質」研究への国際的動向

２．イギリスにおける保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 74

門田理世

（資料１）イギリスにおける保育の質の向上：Ofsted（教育水準局）の機能を通して

３．アメリカ合衆国における保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 85

鈴木正敏

（資料１）アメリカ合衆国における保育の質の研究動向

（資料２）関連論文アブストラクト

４．韓国の保育の質と保育施設評価認証制度に関する研究 ---------- 127

野口隆子

（資料１）韓国の保育の質と保育施設評価認証制度

（資料２）韓国における保育の質に関する先行研究

５．中国における保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 137

芦田　宏

（資料１）収集論文抄訳

６．台湾における保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 169

芦田　宏

（資料１）収集論文抄訳

7．シンガポールにおける「保育の質」に関する研究 ---------- 224
野口隆子
（資料１）シンガポールにおける保育の質
（資料２）シンガポールにおける幼稚園教育カリキュラムの枠組み
（資料３）幼児期の学び手を育てる
8．日本における保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 246
箕輪潤子
（資料１）日本における「保育の質」
9．各国における保育の質の研究動向に関する研究 ---------- 251
鈴木正敏
（資料１）保育の質をどう保障するか

III．研究成果の刊行に関する一覧表 ---------- 255

IV．研究成果の刊行物・別刷 ---------- 256

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）
総括研究報告

保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究

主任研究者　秋田　喜代美　東京大学大学院教育学研究科教授

本研究は、保育環境の質尺度（幼児版・乳児版）を構成すること、ならびに実際にその尺度を研修で使用検討し、実践の場で広く利用できる形で開発すること、またその利用法を検討することである。質尺度の構成に際しては、欧米、アジアのさまざまな保育の質に関する研究をもとに、保育内容と子どもとの相互作用と環境のかかわりを観察し保育士が省察するのに有効な、日本の実態に即したものをめざし、その利用活用法の開発を図っていく。

分担研究者
小田　豊
国立特別支援教育総合研究所理事長
芦田　宏
兵庫県立大学環境人間学部教授
鈴木正敏
兵庫教育大学学校教育研究科准教授
門田理世
西南学院大学人間科学部准教授
野口隆子
十文字学園女子大学人間生活学部専任講師
箕輪潤子
川村学園女子大学文学部専任講師

A．研究目的

本研究の目的は、欧米、アジア諸国での保育の質に関する議論を参考にしながら、保育環境の質尺度を、保育過程、環境、文脈の質を子どもの情緒の安定と遊びへの没頭という視点から評価することによって、各園で保育者自身が園内研修で自己評価に使用することができる尺度を開発することにある。

保育環境の質の向上と保育者の資質向上のための研修のあり方の検討は、保育所保育指針の改訂等においても議論されているように健全な乳幼児育成のための今日における重要な検討課題である。保育の長時間化や子どもたちの種々の能力の低下、認定子ども園をはじめとする新たな保育施設の設置等に伴って保育環境の質を乳幼児の発達と保育課程の視点から検討することが求められる。第三者評価による保育の評価は、設備等の構造に関する最低基準の検討、ハードウェアの検討であるのに対し、本研究は。子どもを養護育成する保育過程における保育環境（保育文脈）のあり方を、自園の子どもの姿を中心にして保育の実態を継続的に省察することによって検討吟味できる保育の質尺度およびその事例集の作成を目的とする。実際の実践観察ならびに保育士の実践知を聞き取り作成することによって、日本の保育所の保育環境構成の場に即した質尺度の構成開発を目的とする。そして実際にそれを複数の協力園で園内研修で使用して改善しながら開発することによって、全国的な保育士の資質

向上に資するものとして開発する。

B．研究方法

欧米、アジア諸国などにおける「保育の質と尺度」に関する資料収集を行い、分析することによって、尺度構成の傾向と方向を調査研究する。それをふまえ、ある環境が準備されているかどうかという環境の構造をチェックする観点ではなく、目前の子どもの事実として子どもが安定しているか、遊びこめているかどうかという点を支える保育環境要因を明らかにし縦断的に使用することが可能な尺度構成を考えていく。その点ではベルギーで開発されOECD諸国で使用されてきているSICS（Well-being and involvement in care a process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings）の着想がわれわれの考えに近く、子どもの実存を中心にした保育過程の質尺度を構成する上で参考になるものと考えている。また今後、東アジアで使用できるものとして、台湾との共同研究を通じて開発していこうと考えている。

C．研究結果

欧米、アジア諸国などの「保育の質」に関する個別の傾向と方向については分担報告書に委ねるとして、そこから得られた知見としては、日本での保育の質の保障、そしてそのために使われる保育の質評価尺度の作成には、1）保育者の主体性を軸として園が一丸となった自己評価の充実、2）自己評価と第三者評価との効果的な組み合わせ、3）子どもたちの視点に立ち生活の質を改善につながるものを、という3点を考慮すべきであるということであった。

そして、それをふまえると保育者が主体となって評価活動を行うとともに、保育実践の質を向上させる方法として上記SICSが大いに参考になるとと言う結果になった。

D．結論

ベルギーで開発され、OECD 諸国では使用されている SICS をもとに日本の保育者へのパイロット研究をもとに尺度を構成しようとしている。SICSはヨーロッパ文化の中で作成されたものであるので、日本を含むアジア文化の中で使えるものにするために、諸処の点について検討調査し、アジア版として構成し直す必要がある。そこで、現在まずは日本版の作成のために九州、関西、東京３地域において３０園において保育所において項目の妥当性のための調査を依頼し、項目確定のための分析検討中である。

次ページ以降、現在構成途中にある日本版SICSの基礎理念、キー概念のとらえ方、マニュアル、尺度Formを資料として添付する。

E．研究発表

1．論文発表

秋田喜代美・箕輪潤子・高櫻綾子 (2008) 保育の質研究の展望と課題　東京大学大学院教育学研究科紀要,47,289-305.

＜資料１＞

保育自己評価ツール（ＳＩＣＳ：Self-evaluation Instrument for Care Settings）の根底となるExperiential Education（ＥＸＥ）の教育思想

1　ＥＸＥの位置づけと歴史的展開

ＯＥＣＤ（1998）は生涯学習基盤強化のねらいから，保育の質の向上とアクセス機会の増大を目的として各国政府が動き始めていることを報じている。そして保育カリキュラムとして代表的な５つのカリキュラム（４カリキュラムとワークショップ開催国スウェーデン１）を選んで、Starting Strong Network 参加国メンバーとの間でワークショップを実施している。その４つが、イタリア　レッジョエミリア、ニュージーランド　テワリキ、アメリカのハイスコープ、そして当科学研究費プロジェクトが取り上げている Ferre Laevers ベルギー　リューベン大学教授による Experiential Education（以下では経験に基づく教育と呼ぶ）である。

ＥＸＥの基礎は１９７６年にベルギー　リューベン大学で Ferre Laevers によって主張されてはじまった。実践志向の研究を通しての開発や普及を通して、ベルギー　フランダース地方とオランダに最も大きな影響を与え、すでにこの教育学に基づく本とビデオが１８冊、１年に７５０回の現職教育がこの観点から行なわれるようになってきている。この思想は当初から幅広い場に適した質の評価と実践における質の改善をもとめて生まれたものである。その鍵は教育の質を、現在行なっていること（文脈）がある次の地点（成果）を導くものになっているのかどうかと私たちが感じることを助けるような指標を開発するという点にある。その基本的仮説は、いかなる教育の場においてもその質を雹ぁするための決定的な方法は、子ども・学習者がいかに「その場が情緒的に居心地よく（幸せに感じ）あるかの程度」と「没頭（集中）の水準」に焦点をあてることであるという点である。これは効果的な教育の文脈を作り出す時の試金石となる。それが経験に基づく教育がいかに子どもを没頭されるかという過程であり、この方法がなぜ実践者に魅力的であり、彼らのもてる力を引き出すかということにある。しかし近年ではそれが教育の成果にまで広げられて考えられるようになってきているが、質評価のための概念やツールも実践へのガイドラインもいずれの水準においても、その中心となるのは「自らによる構造化（self-organisation）と新たなことを始めようとする精神」「社会的有能性」「物理的世界を理解すること」そしてすべての主題において「深い水準での学習」であるという生きる技能の観点から発展させてきている。

この思想と評価が広がったのは１９９１年からであり、これらの基本ツールが英語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、フィンランド語、ポルトガル語、スウェーデン語、スペイン語に順に翻訳されてからである。そしてこの経験にもとづく教育の議論の場となったのがヨーロッパ幼児教育学会である。

特に画期的進展をみたのは１９９５年に、イギリスにおいてＥＥＬ(Effective Early

Learning)として紹介導入され（Pascal & Bertram, 1995）この時イギリスでは３０００人以上の実践者と５万人の子どもたちが英国全土の質の改善のためにＥＥＬ方略として携わった。ＥＥＬの幼児養育自己評価システムは２つのＥＸＥ（経験にもとづく教育）のツールからなる。その一つはLeuven Involvement Scale（子どもの集中尺度）であり、もう一つは大人の関わりのスタイル観察（Engagement Scale）である。英国の各地域の教育担当局がこの分野ではこのＥＸＥの理念を過去５年間に保育施設の施設長や助言者、教育行政関係者が２５００を超える場でいれていている。

その後２００４年以後もさらに大きく展開し、オランダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、スペイン、ポルトガル、フィンランド、スウェーデン、ギリシア、レトランド、クロアチア、キプロス、南オーストリア、南アフリア、エウアドール、ザンビア、ニカラグア、ベトナム、スリナム等２０カ国を超える国で学ばれ、この教育思想に基づく保育の質の評価が実施されてきている。

また幼児教育だけではなく、１９９４年に開発されたＬＩＳ－ＹＣは英国小学校において特別な支援を要する子どもの教育の質の評価にも Royal National Institute for the Blind にも使用されてきている。

２　経験にもとづく教育プロジェクトの基本概念：文脈、過程、結果のレベルについての概念と経験

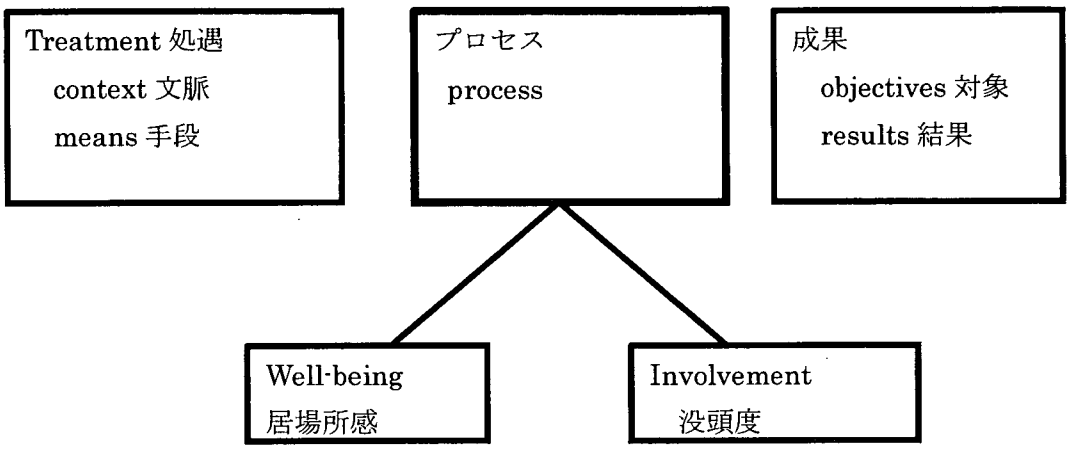
この考え方は１９７６年５月に１２人のＦｌｅｍｉｓｈのプレスクール教師たちが２人の教育コンサルタントの援助を受けながら自分たちの実践を批判低に省察しようとするところから始まった。このアプローチは「experiential 経験的」とは子どもがその教育場面に参加しそこで生きるとは何を意味しているのかをその一瞬一瞬を密に記述しようとする意図を意味している。この注意深い観察と子どもの経験の「再構成」が一連の満足のいかない状況に光をもたらすことになる。子どもの発達を支える機会はあまりに多すぎて実際には活用されていない。何十のセッションの中で教師が出会う問題の可能な解決を語り合い実践の中でそれらを行い、その経験を省察する。それによって次第に教師たちは現在の実践からいかにして変化していくかに気付いていった。そしてそれがＥＸＥとなった。それはフランダース地方とオランダでの小学校教育でもっとも影響力を持つモデルの一つとなった。この基本概念は、チャイルドケア、特殊教育、中等教育、教員研修等、学習と教師の専門性開発が行なわれる場所ならどこでもできるものである。

１）質の探究　ケアと教育の場における質とは何か？親、カウンセラー、校長、カリキュラム立案者の視点からみれば、それぞれに期待する教育の文脈や教師の行動がある。インフラストラクチャや備品、活動内容、教育方法、教育スタイルなどなどである。政策や政府の視点から見ればより直接的に教育の成果にもとづきそれを捉えるだろう。通常の評価においてはケアと教育のシステムは、この意味でよいよい結果を強制されている。このような状況の中で、子どもとともに生き、働く教師が立たされている。

その中で彼らにとって最もよいものは何か。センシブルなガイドラインと効果的であることを受けいれたとしてもその２つの目的を一緒にいかにつなぐのか？

2）教育過程への注目

この問いに対する、ＥＸＥプロジェクトの最も大きな寄与は、文脈と成果というこの２つのアプローチの間におかれている質の指標を同定することである。リンクがかけている点を指摘することができる。それが今行なっていることの文脈がどこへむかうのかを導くかどうかを理解するのを助ける概念である。就学前から成人教育に至るまでいずれにおいても「情動的な居場所感」の程度と「没頭」の水準の２次元によって教育の質に焦点をあてることができる。まず我々が幼児養育に行ったときに知りたいと思うのは子どもたちが安心して自発的に行動的生き生きと自信に満ちて行動でいているかである。居場所感とは、身体的ニーズ、やさしさや愛情のニーズ、安心や明晰性のニーズ、社会的に認められたいというニーズ、有能と感じたい、生活に意味や道徳的価値を見出すことのいずれもが満たされているかである。



第２の基準、没頭は発達過程と関連しており、大人が子どもにとって喜んで没頭できるような挑戦的環境が準備しているかである。よい学校は情動的な居場所感と肯定的風土に注意を払っていることだけではなく、一方で没頭できるよう促す課題を準備している。没頭は特別の行動や発達水準と関わるものではない。赤ちゃんでも大人でも、特別の才能をもった人でもハンデイキャップを持った人でもその膣を共有することができる。それはチクセントミハリがフローと読んだ状態である。

フローの最も顕著な状態は集中である。それは強い動機となる。人と活動の間に距離がなく、何が得などの計算のない状況であり、時間が急激にすぎていく。さらに関係する刺激に対して開かれ知覚や認知機能がよく働いていて、他の活動はできない状況にある。言葉や考えの意味が強烈により深く理解される。満足感や身体的にエネルギーを感じている。状況によりさまざまな強度があるが重要なのは、満足が一つのソースから生まれており、内発的であることである。没頭はその人の能力にあった活動

というわずかなエリア、発達の最近接領域でのみ生じる。

3）没頭を測定する

しかし没頭は主観的な統制として見られてきているが、十分に信頼可能な測定ができる。レベル１活動がない、心が不在。レベル２　注意が切れている。レベル３活動しているとよぶことができる。何かをしている。レベル４密な心的活動が生じている。レベル５　没頭して全体として関与している。うまく活動がいかなかい事態に帳面しても気が散ったり途切れたりしない。

子どもの経験に共感できる、子どもになるような感覚をもった観察者によって行なわれることが評定過程の中核である。このことがその子どもの心的活動や彼の経験の強さについての結論を導く時の情報を与える。求められる観察技法によらず、ＬＩＳ－ＹＣの信頼度は評定者間で.9と高いものである。

4）居場所感と関与の水準をあげるために

この２つの概念は研究のために有効であるだけではなく、教育の質を上げたいとおもっている実践者たちにとって大いに役立つ。多くの教師たちの経験によって、一群の熟練教師たちによって集められ体系化されたものが１０のアクションポイントである。

１０の行動ポイント

１　部屋のコーナーやエリアをアレンジしなおす

２　コーナーの内容をチェックし、魅力のない素材をより魅力的なものに置きかえる

３　新たなこれまで使われてきていない素材や活動を導入する

４　子どもを観察し、彼らの興味を発見し、彼らの志向性にあった活動をみつける

５　刺激を与え、より豊かになるよう関与することで進行中の活動をサポートする。

６　自由なイニシアチブの余地を広げ健全なルールと同意を持って子どもたちをサポートする。

７　子どもたちそれぞれとの関係、子ども同士の関係を探究し改善につとめる

８　子どもが行動や感情、価値の世界を探究できることを援助できるように活動を導入する

９　情緒的に問題を抱えた子どもを同定し、継続的に関与する。

１０　発達的なニーズを必要っする子どもたちをみつけその子が問題とする分野の中での関わりを増やしていけるように関わる。

行動は多岐にわたっている。１－３は空間、素材、活動の組織化の問題である。４は教師のその環境にいかにであっているかを彼らの興味を見つけよりそこでより焦点にあったものを与えるために注意深く子どもをみることである。５の有効な大人側のスタイルは決定的要因である。６は子ども間のダイナミクスや探索欲求を利用するには子どもたちがイニシアチブをとれるような組織のオープンな形態が必要とされる。子

どもが活動を選べるほど、子どもの関与水準は高くなる。７は社会的な関係であり、教師との関係だけではなく、子どもがいかに他の子どもとによって経験しているかをしることが重要である。カールロジャーズが定義した empathy, authenticity が重要である。グループレベルでは、経験を共有し肯定的な集団の雰囲気を作り出すことが必要である。８は感情や思考、価値の探索である。それによって感情的知能と社会的コンピテンスをうながすことができる。
１から８は一般的な特徴であり、基本的なものであるのに対して、９、１０は特別な支援を要する子どもたちへの配慮である。

5） Experiential な教師のスタイル

教師の関与は多様である。にもかかわらず一人の教師が多様な状況に関与する特定の個々のパタンを識別することができる。そこでそれをＡＳＯＳ（Adult Style Observation Schedule）と呼ぶ。これは３つの次元から構成される。刺激を与える stimulation、感受性 sensitivity、自立性を与える giving autonomy

刺激を与えるような関与とは子どもにおける行為の連鎖を生み出すような開かれた刺激であり没頭の高低の相違を作り出すものである。たとえば：自分の周りのことを不思議に思うような活動が行なわれたか、進行中の活動にあった素材が提供されたか、子どもたちがコミュニケーションしたくなるような状況か、子どもたちが思考を喚起するような問いに直面したか、彼らの心をつかむような問いがだされたか

感受性は子どもの異本的要求を共感的に理解しているような応答ができているかである。安定感、愛情、注意、肯定、明晰、情緒的サポートなどである。

自律性を与えることは空間、時間、活動等の組織化が開かれているということだけで実現するのではなく、関与の程度によって実現される。つまり：子どもたちが相互に興味を認め合いイニシアチブをとっている感覚を大事にする。試すための余地を与える、活動をどのようにするか、いつおわりにするかを子どもたちがきめられるようにする。ルールがある状況や葛藤解決のような状況である。

教師と子どもたちの相互作用をこの次元で持ってみてみると、いかにこの次元が有効かがわかってきた。そして空間や材料、提供された活動のような他の文脈の次元よりも教師という人がより一層重要であることも明らかになる。

6）過程志向の子どもモニタリングシステム

特別注意を要する子どもを組織的に観察するためにはモニタリングシステムが必要であるが伝統的な結果志向のシステムでは診断的な目的という価値をもっている。多く

のモニタリングシステムは、学業的な達成に集中しており、成功は学習の質によるところが大きいというところがわすれられている。ただし子どもがどこに立っているかを知ることはすぐにいかなる行動をとるべきかがわかることではない。多くのモニタリングシステムの背後にあるパラダイムは課題を分圧して子どもがそのギャップを克服できるようにするものになっている。しかしこのアプローチは子供の発達過程の性質を考慮していないし、子どもが一人の人格として機能していることをとらえていない。

そこでＥＸＥの枠組みでは過程志向のモニタリングシステム（ＰＯＭＳ process oriented monitoring system）と一貫する教育過程の質についての２つの主な指標として wellbeing, involvement をとりあげる。そこでの問いは、それぞれの子どもは今どどのようにしているのか、子どもたちそれぞれについてあらゆる重要な分野において情緒的健康と真の発達にむけて十分な努力がなされているか？　最初の段階で５段階評定で４以下のこについてさらなる観察や分析をしていく。年に３，４回定期的に評価することが実践化可能で効果的である。他のシステムとは対照的に、ＰＯＭＳは目的の感覚を与える。教師は自分の仕事ですぐにフィードバックを与えなえればならないと感じ、すぐに実行することになる。それは喜びや内発的動機をさらに与えるものとなる。

６）深いレベルの学習という概念

ＥＸＥの理論枠組みでも教育の効果や成果へは多くの注意が払われる。深いレベルの学習という概念は教育評価への批判的なアプローチの関心事である。この中心にあるのは子どもの基本的コンピテンスに影響を与えないような、実生活に転移しないような表面的な学習に疑問をむけることである。構成主義の伝統同様、発達の過程を単なる個々の知識要素の足し算としては捉えない。基礎となる基本的なスキーマの構造に依存したものとして考える。

この視点から５分野の発達分野を考える　（１）身体的知識　（２）心理社会的認知（３）コミュニケーションと表現　（４）創造性　（５）自己組織化（体制化）

この文脈では知能を論理数的知能とは異なるものとして捉える点が重要である。世界を真にわかるにはその世界を感じる能力が重要である。

７）価値の教育

ＥＸＥでは「つながり　linkedness」リアリテイへの肯定的志向性の発達への深い関心を示す表現である。それが価値の教育への参照点である。

エコシステムの中でのつながりというのは宗教的な概念でもある。宗教 Re-ligion(re-liare)は再びつながるという意味である。非行 delinquency はつながりの欠如を意味する。つながりの感覚は犯罪行為等の予防の試金石となる。何かとつながっているという感覚が破壊者となることを妨げる。

幼児教育のレベルでの概念にして詳しく述べれば、子どもは１自分自身　２他者　３物質世界　４社会　５完全なエコシステムとしての一体感とのつながりの態度を育てていくことを援助するのである。

８）エネルギーへの問い

ＥＸＥプロジェクトで蓄積された経験は教師たちの質の改善に役立っている。それは彼らがすでにわかっていることへの確証となる。子どもはフローの状況にある時にその活動によって問われた分野で発達が生じる。効果変数ではなく、過程変数は介入の質にすぐにフィードバックを与えることができ潜在的にインパクトを与えるべき点を明らかにする。さらに没頭を質の鍵指標にすることは肯定的な活力を生み出す。子どもの情熱的な応答がさらに教師に専門的な水準と個人的水準で深い満足を与える。専門的ガイダンスの参照点として没頭を取り上げることが教師の働きや現実の場への尊敬を生み出すことになる。経験の教育は自分が立っているところ、現実の状況から始まる。一つの行為のフィールドが選ばれることによって潜在的にそこでの居場所感や関与が増加することが潜在的に生まれる。それがいかにわずかなことであっても、この増大が成功を経験させ、次のイニシアチブをうみだしていく。つまり経験の教育は人々の中のエネルギーを引き出し促すことで、子どもたちにより深いレベルの学習を生み出す螺旋へと導き、そして大人にも深い学習を生み出していく。

＜資料２＞

SICS 補足資料

以下のＰＰＴは２００７年１１月２０･２５日において OECD Starting Strong Network へ文部科学省の派遣で日本委員として 秋田が参加した際に得た、ＳＩＣＳに関わる資料である。最初のｐｐｔ資料が Laever 教授自身によるものであり、次のｐｐｔは英国　ケント州でＳＩＣＳを導入した保育施設の保育の質がいかに改善したか、またＳＩＣＳが従来から欧米で使用されてきた保育の質の指標ＥＣＣＥＲＳとも一致する点があり質の指標としての信頼性が高いことを示したものである。両方ともプレゼンターである両氏の掲載の了解を得て本資料に掲載するものである。

なお本資料は、http://www.startingstrong.net/においても掲載されている。

The process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings [SICS]

First conclusions of a large scale study in Flanders

Prof. F. Laevers [project leader]

Research Centre for Experiential Education - Leuven University

Project funded by KIND & GEZIN

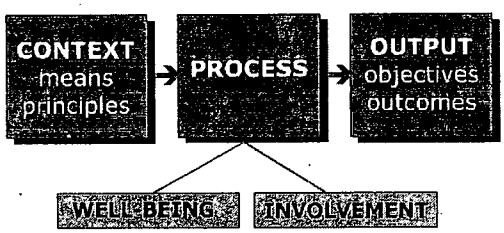
The research team

- Prof. Wim Van den Noortgate [methodology]
- Mieke Daems, Griet Debruyckere, Bart Declercq, Julia Moons, Kristien Silkens & Gerlinde Snoeck [researchers]
- Bea Moris & Annelies Jooken [master students]

Introduction

- The mission statement of Kind & Gezin
  - Children's rights
- Actual view on quality assessment
  - Self-evaluation by settings
- The experiential view on quality
  - How are they doing?

Conceptual framework



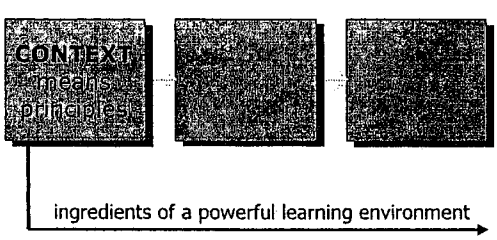
Well-being

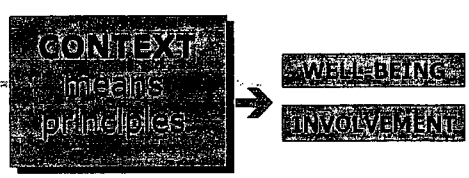
- at ease
- spontaneous
- open to the world
- inner rest
- vital
- self-confident
- in touch with oneself
- enjoying life

Involvement

- concentrated and focussed
- interested, motivated
- mentally active
- intense experience
- satisfaction of the exploratory drive
- at the very limits of capabilities

Context





1. The 10 Action points

2. Adult style

The 10 Action Points

Create a rich environment ①②③
Offer activities based on observation ④
Stimulate activ. with open impulses ⑤
Give room for child initiative ⑥
Build up positive relations ⑦
Explore the world of feelings, behaviour & values ⑧
Support children with special needs ⑨⑩

Research Questions

- Develop a strategy and instruments for self-evaluation by care settings
- Support the implementation of this tool
- Collect data with regard to the 'quality' of care in Flanders

Research design

- Adaptation of scales and development of a try-out and final version
- Launching of the dissemination:
  - Half day of training with staff of settings
    - Use of the scales by settings
  - Half day of reflection + training for delegates of settings
    - Use of the scales by settings
  - Observation in settings, consulting and evaluation with head of setting

SICS Instruments and procedure

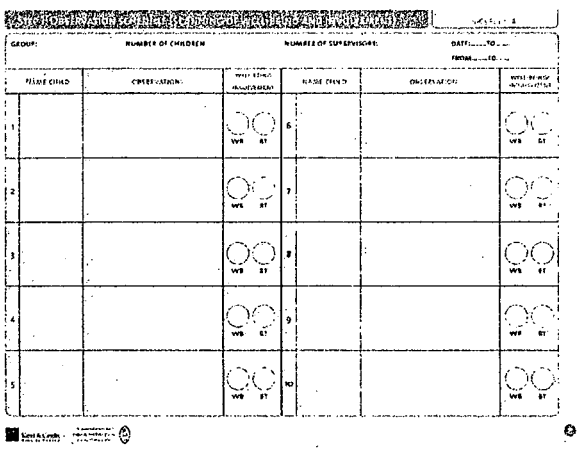
- Free download of the full instrument in English from:

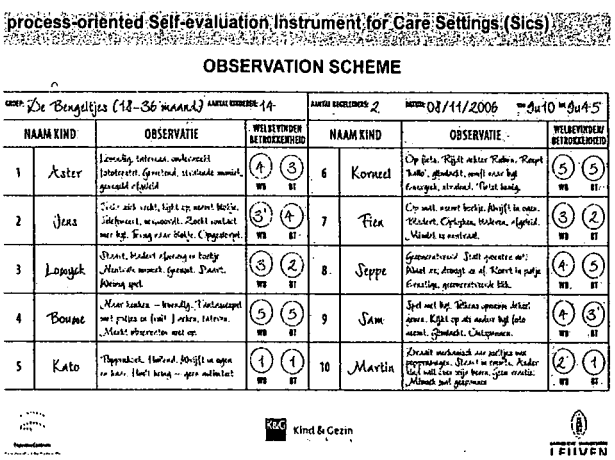
  www.kindengezin.be

  www.cego.be
- Training pack (video and manual in English) published by CEGO

SICS Instruments and procedure

- STEP 1: Scanning of well-being & inv.
  - Two rounds per group



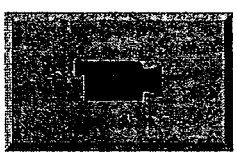


process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings (Sics)

OBSERVATION SCHEME

NAAM KIND		OBSERVATIE	WELBEVINDEN BETROKKENHEID		NAAM KIND		OBSERVATIE	WELBEVINDEN/ BETROKKENHEID	
1	Xater		4	3	6	Konnel		5	5
2	Jens		3	4	7	Fien		3	2
3	Lopyck		3	2	8	Seppe		4	5
4	Bouwe		5	5	9	Sam		4	3
5	Kato		1	1	10	Martin		2	1

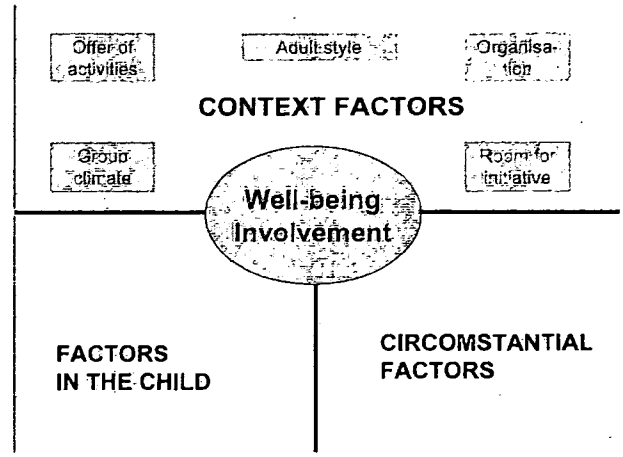
Video scanning

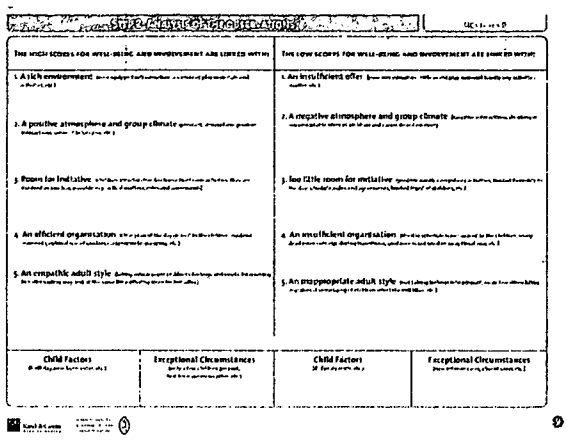


Scanning involvement

The Self-evaluation Instrument for Care Settings [1]

- STEP 1: Scanning of well-being & inv.
  - Two rounds per group
- STEP 2: Analysis of data
  - Why low? Why high?





Quality at the level of the context

- The offer of activities
  - How rich is the environment provided?

Quality at the level of the context

- The offer of activities
  - How rich is the environment provided?
- The climate
  - How positive are relations in the group?
- Room for initiative
  - How much freedom for and participation by the child?

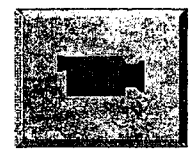
Video initiative

The sandman

Quality at the level of the context

- The offer of activities
  - How rich is the environment provided?
- The climate
  - How positive are relations in the group?
- Room for initiative
  - How much freedom for and participation by the child?
- Adult style
  - To what extent is the perspective of the child taken in interactions?

Video style



Fruit on stick

Video style

Fingerpainting

Quality at the level of the context

- The offer of activities
  - How rich is the environment provided?
- The climate
  - How positive are relations in the group?
- Room for initiative
  - How much freedom for and participation by the child?
- Adult style
  - To what extent is the perspective of the child taken in interactions?
- The organisation
  - How efficient?

The Self-evaluation Instrument for Care Settings

- STEP 1: Scanning of well-being & inv
  - Two rounds per group
- STEP 2: Analysis of data
  - Why low? Why high?
- STEP 3: Planning of initiatives

Data collection: baseline assessment

- During third visit (half day) by researcher at settings
- Scanning procedure (1 round per group, 10 children)
- Scoring the 'context factors'
- Qualitative information on factors
- Suggestions for 'actions'

Research sample

	Population	Participating	Coverage
Licenced care centre	334	262	78,0 %
Mini-Creche	797	43	5,4 %
Independent care centre	148	12	8,1 %
Service for child minders	194	83	42,8 %
Independent child minder	1203	2	0,16 %
Centre for child care and family support	23	18	78,0%
Out of school care		184	

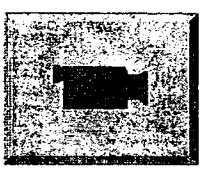
Results [1]
⇨ how much well-being?

Mean score 3.61	SCORE	Number of children	%	% L M H
Low	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
Moderate	2+ 3 3+	404 1568 1535	5,04 19.57 19.16	43.77
High	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

What is the norm?

50 % of the children	50 % of the children
Score 3	Score 4
Mean score 3.5	

Video well-being



Sample well-being low

Results [2]
⇨ how much involvement?

Mean score 3.29	SCORE	Number of children	%	% L M H
Low	1 2	290 837 1816	3.52 10.1 22.0	20.52
Moderate	2+ 3 3+	464 1382 1343	5.80 17.26 16.78	39.84
High	3 4+ 5	2176 379 625	26.4 4.75 7.80	39.64

Results [3]
⇨ variation in well-being

Mean score for well-being at the level of the setting [N: 379]

	2.0 to 2.49	2.5 to 2.99	3.0 to 3.49	3.5 to 3.99	4.0 to 4.49	4.5 and mores
Number	1	5	50	203	108	9
%	0.26	1.31	13.2	53.6	28.5	2.6
Laag versus Hoog	14.77 %			85.2 %		

Results [4]
⇨ variation in involvement

Mean score for well-being at the level of the setting [totaal: 389]

	2.0 to 2.49	2.5 to 2.99	3.0 to 3.49	3.5 to 3.99	4.0 to 4.49	4.5 and more
N	3	42	120	186	35	3
%	0.77	10.8	30.8	47.8	9.00	0.77
Lower versus Higher	42.4			57.6		

Results
⇨ context factors

Per factor one score		
-1	0	+1

Results [5]
⇨ variation in context

The sum of all scores per scanned group [number: 691 groups]

	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5
Aantal	0	0	12	56	91	111	105	83	66	24	0
%	0.00	0.00	0.07	8.01	13.0	16.1	15.2	12.0	10.4	3.47	0.0
	16.0 %				45.9 %			39.2 %			

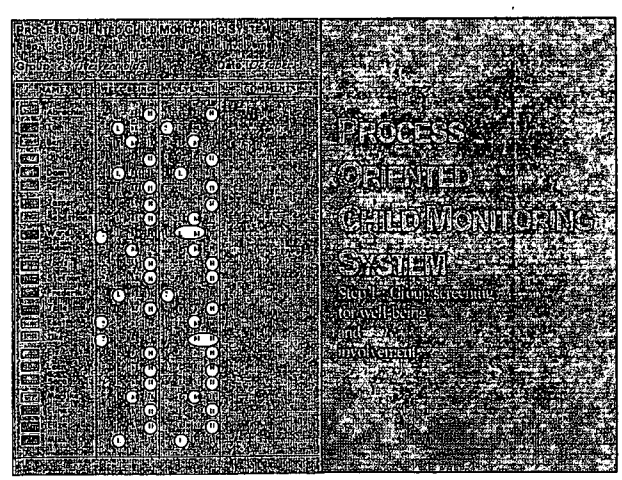
Clarification:
-5 = score minus 1 for each of the 5 factors
-4 = example: ones score -1 voor 4 factors ones score 0 for 1 factor
+5= one score +1 for each of the 5 factors

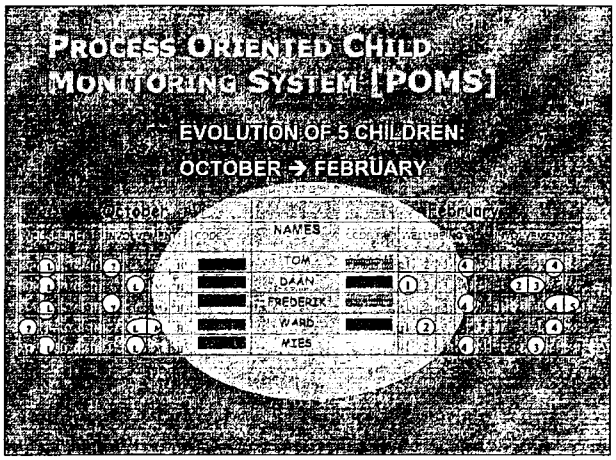
Conclusions
⇨ the results

- Well-being
  - A good starting point
- Involvement
  - A reason for concern (< 3.5)

Conclusions
⇨ strategies

- The use of SICS
  - The strength: another way of looking at children
  - Solid feedback: systemacy, range, link with practice (context factors), no nonsense approach
  - To be supplemented by screening procedure





Conclusions

⇨ strategies

- The use of SICS
  - The strength: another way of looking at children
  - Solid feedback: systemacy, range, link with practice (context factors), no nonsense approach
  - To be supplemented by screening procedure
- Need for training
  - A lot of evident interventions not in use (dramatic change possible in a short time)
  - Care-taking is a profession
- The chances for success?
  - SICS has been well received by the field (88 % makes a positive evaluation)

What next?

⇨ focus on output

- Enormous potential
  - Prevention
  - Brain studies
- Developmental areas
  - Self-confidence and emotional health
  - Social competence
  - Understanding of the physical world & technology
  - Communication and language
  - Self-organisation and entrepreneuship

What next?

⇨ focus on output

- Enormous potential
  - Prevention
  - Brain studies
- Developmental areas
  - Self-confidence and emotional health
  - Social competence
  - Understanding of the physical world & technology
  - Communication and language
  - Self-organisation and entrepreneuship
- Research at the European level
  - Instruments for assessment
  - Sharing of strategies

SICS
Instruments and procedure

- Free download of the full instrument in English from:

  www.kindengezin.be

  www.cego.be
- Training pack (video and manual in English) can be ordered at CEGO (see Poster)

Empowering early years practitioners to improve the quality of provision

Colleen Marin

ASK
Advisory Service Kent

Context: Public Service Agreement (PSA)

"To promote the physical, emotional, social and intellectual development of young children so that they flourish at home and at school."

Public Service Agreement Target

1) To improve the outcomes for children

Early Years/Foundation Stage	F	Baseline (2004)	Target (2008)
%age children with six+ points for Personal Social & Emotional Development in Foundation Stage Profile (excluding Swale, Dover & Gravesham Surestart). PSA 1.3	A	86.7%	89.7%
%age children with six+ points for Communication, Language & Literacy in Foundation Stage Profile (excluding Swale, Dover & Gravesham Surestart). PSA 1.3	A	71.5%	74.5%

Public Service Agreement Target

2) Reduce the outcomes gap between the areas of high social deprivation and the rest of Kent

Swale, Dover, Gravesham	F	Baseline (2004)	Target (2008)
Gap to county for PSED in Foundation Stage Profile for Surestart postcode area. LPSA 1.4	A	9.7%	6.7%
Gap to county for CLL in Foundation Stage Profile for Surestart postcode area. LPSA 1.4	A	16.6%	13.6%

The PSA Steering Group

- Acting Principal Educational Psychologist
- Specialist Teaching Service Manager
- Adult Education Strategic Manager
- Senior Adviser Early Years (Chair)
- Strategic Manager Libraries

The Advisory Team

The team of 47 advisers comprised:

- Early Years Advisory Teachers
- Early Years Special Educational Needs Co-ordinators (SENCOs)
- Birth to Three Advisers
- Early Years Quality Assurance Team

Settings Involved

- 175 settings in total in the 3 areas
- 68% took part voluntarily
- 119 settings in total
- 2,081 children

How would we achieve the Target?

- Principled approach
- Leuven Scales/Ten Action Points
- Box Full of Feelings